

障害って何だろう？

ガイドブック



ベンチャープロジェクト
～障害への理解とバリアフリー～

日本ボーイスカウト
愛知連盟名古屋西部地区
名古屋第67団ベンチャー隊

[67VS Facebook](#)

もくじ

1. 私は障害を持つスカウトです
2. 障害って何だろう？
3. 困難なことがたくさんあります
4. スカウティングを振り返ってみよう
5. 辛い体験を乗り越えたBS隊
6. あきらめずに挑戦したVS隊
7. VS仲間からのアドバイス
8. ベンチャーフォーラムから学んだこと
9. スカウティングを続けて成長
10. 障害を持つスカウトからの提案
11. スカウティングにおけるサポート事例
12. 社会のしくみが作るバリア
13. バリアフリーをめざす
14. 障害者を守る法律
15. 指導者や仲間へ
16. 障害を持つ子どもたちへ

私は障害を持つスカウトです。 障害について理解してほしい。

私は、はじめに、自分自身の特徴を研究しました。
そして、VS隊の仲間に障害を理解してもらうために、
障害について発表することにしました。

方法：ベンチャーフォーラムを開催する

テーマ：バリアフリーを考える

開催：平成30年11月24日

会場：団スカウトハウス

参加：名古屋第67団VS隊スカウト、リーダー

フォーラムの手順

- 1.障害について（隊長より説明）
- 2.自己紹介（自分の特徴をカミングアウト）
- 3.質疑応答（障害についての疑問に答える）
- 4.公開討論（仲間の考えを聞き一緒に考える）
- 5.まとめ



＜フォーラムの結果＞

ベンチャーで話し合いをしたら、仲間から意見やアドバイスをもらえました。そして、リーダー、仲間、家族の力を借りて、この「障害って何だろう？ガイドブック」が完成しました。障害を持つスカウトからの提案を理解して頂けると嬉しいです。

←バリアフリー・イメージキャラクター

私の妹が、スマホ・アプリで作成してくれました。

障害って何だろう？

- **障害者とは？**

心や身体の機能に障害がある人。その障害と社会的障壁により、継続的に日常生活、学校や仕事でかなり不自由な状態にある人。

- **障害の種類**（大きく分けると3種類あります）

身体障害（手足耳目などが不自由がある人）

知的障害（知的機能の遅れがあり、日常生活に支障がある人）

精神障害（精神障害、発達障害などの人）

- **人それぞれ症状や困難が違います**

二つ以上の障害を持つ人もいます。

障害の種類や程度によって症状が違います。

- **自己紹介(自分の特性)**

私には、軽度知的障害と、発達障害ADHDがあります。

- **軽度知的障害**

Mild mental retardation

中学は特別支援学級、高校は特別支援学校で学んでいます。

愛護手帳4度（療育手帳軽度）

- **発達障害 ADHD**

Attention deficit hyperactivity disorder

日本語名：注意欠陥多動性障害

特徴は、不注意性、多動性、衝動性の3つです。

精神障害者保健福祉手帳3級

困難なことがたくさんあります



私は、自分の考えを言葉で説明することが苦手で、困難に直面すると、緊張して不安になりやすいです。

特に、不注意性と衝動性が目立つタイプです。

•軽度知的障害の特徴

「自分の考えや気持ちを、うまく説明できない」

「文字を書くのが苦手」「書く作業にとっても時間がかかる」

「文章にまとめることが難しい」「黒板の文字が書き写すのが遅い」

•発達障害A D H Dの特徴

「得意不得意のばらつきが大きい」

「多くのことを言われると頭が混乱しやすい」

「突発的な出来事に対して、対応がわからない」

多動性 「そわそわして落ち着きがない」「気が散りやすい」

「興味のあることを話し出すと止められない」

不注意性 「時間が気になってしまい、やるべき事が疎かになる」

「忘れ物が多い」「指示が何だったか忘れる」

「手順、段取りがうまくいかない」

衝動性 「興奮すると話を聞けなくなる」「混乱し自分の頭を叩く」

「パニックを起こし、怒れてきて暴れることもある」

スカウティングを振り返ってみよう

・楽しかったBVS隊

ビーバースカウトの時は、特に嫌だったことはなかった。楽しかったことは、スライム作り、割り箸鉄砲作りが楽しかった。



・舎営が苦手だったCS隊

楽しかった活動は、ツリークライミングや清掃奉仕、チャレンジ章の収集家の発表や茶道の仕方や潮干狩りです。

しかし、カブ隊ではとにかく舎営がいやだった。どうしたらいいか分からず、活動もうまいかず、いやになって辞めたくくなりました。夜になると、怖くて、大きい声で泣いていた。リーダーと一緒に寝てくれたりしたおかげで、なんとか、カブスカウトをつづけることができました。

何度もスカウトをやめようと思いました。それでも、カブの仲間たちと別れるのが嫌だった。だから、ボーイ隊にはなんとか上進しました。

リーダーの言葉

隊長、副長、デンリーダーが、温かく見守ってくれたおかげで、舎営を乗り越えました。保護者は、とても心配だったと思いますが、リーダーを信頼し、任せてくれました。

辛い体験を乗り越えたBS隊

・ ボーイ隊で学んだこと

ボーイ隊は、釣り、クリスマス会、夜のスタンプ、潮干狩りが楽しかったです。クロスカントリースキーの付け方と滑る楽しさ、バク材を使った四脚の机・立ちかまどの作り方を学びました。長距離ハイクのつらさの後に待っている達成感を味わいました。

・ 辛かった経験

班での活動に集中ができず失敗したり、仲間からバカにされたりしている気がするがありました。クロスカントリースキー合宿の夜に、「もうやめると雪の上で転がって泣いたこともありました。1TC（第1回東海3県合同野営大会）の後、一度、どうしても、スカウトをやめようと思い、隊長に言いこいた。その時、隊長は長い時間、相談に乗ってくれてから、新しいチーフリングを渡してくれて、「本当にスカウトをやめるときには返してね」と言った。僕は、そのチーフリングを返すことはありませんでした。

・ なぜ乗り越えられたのか？

クロスカントリースキーやキャンプや長距離ハイクで、くるしい時間を乗り越えたことで自信を持つことができました。



リーダーの言葉

障害からくる行動が正しく理解されないと、仲間も誤解してしまうことがあります。それにより、周りから否定的な対応を受けると、自信を失っていきます。スカウト仲間や指導者の理解を得ることが大切です。

あきらめずに挑戦したVS隊



・ベンチャー隊

怖いものが減ってきて、うるさく言われることも少なくなりました。

楽しかったVS活動は、愛知ベンチャースカウト大会、クロスカントリースキー、北アルプス登山、藤原岳への雪中ハイクです。

・VS-1年目

登山のレベルが上がり一度滑り落ちそうになったりしましたが、その後の絶景がきれいで、美しい景色を見に行くにはリスクがあるのを知った。2TC（第2回東海4県連盟合同野営大会）では、初めて、隊付をしました。一班一班確認するのがここまで大変だとは思いませんでした。閉会式のサプライズ出演でホワイトジャムのライブを見ていたら、自分もノリノリでした。

・VS-2年目

3AV（第3回愛知ベンチャースカウト大会）は、長期キャンプでしたが、怖くありませんでした。初めて縛材でいかだを作りましたが、いろんな人と協力でき楽しかったです。カヌーも経験し、前半は回ってしまったりしましたが、後半からうまくこげるようになりました。最後の夜にやった手筒花火は楽しかったです。韓国人のスカウトのダンスもすごくかっこよかったです。

・VS-3年目

春のキャンプでは、粘土を掘り、手作りかまどを作成しました。夏登山で北アルプス、初めて雪のない涸沢カールに登りました。二日目に大雨と強風で山小屋に泊まることになりましたが、三日目の朝に見たモルゲンロートがきれいでした。秋の開田高原キャンプでは、自分たちのスカウト技能がどれくらいできるか知るためにキャンプしました。まだ出来ないことも少しあったけど、直していこうと思いました。夜に天体望遠鏡で見た星や月がきれいでした。

リーダーの言葉

褒めて伸ばすことが一番効果的。できる事が増えると自信がつきます。経験する回数を増やすことで記憶の保持につなげる、指示は短く簡潔に出す、障害のクセがでたときは、落ち着かせてから伝える等、臨機応変に対応。仲間を信頼し、サポートを得られたことが、成長につながったと感じます。

VS仲間からのアドバイス



- **VS-S**

怒らせたり、興奮させてしまったときは、自分の言い方が良くなかったのではないかと反省していた。

- **VS-U**

興奮したときは、早く興奮が収まらないかなあと待っていた。

- **VS-N**

障害があるとは知らなかった。なんか短気な人ですぐ切れる人だなあと思っていた。理解できたので、障害があると配慮しようと思った。

- **VS-K**

興奮すると、まただなあと、よい思いはしない。ただ、障害があると分かっているから、理解はしている。忘れ物をしていたり、V S 連絡に返事をするのを忘れたりするのは、工夫することで、なんとかできるのでは。たとえば、1日のうちの何時から何時の間は、忘れていることはないか思い出したり、確認する時間と決める、と言うやり方もあるのでは。それから、何か頼むときには、もっと、分かりやすく具体的に言えばよかったと思う。

- **VS隊長**

特に、衝動性のところが心配。社会に出て、物を壊したり、人を傷つけたりすると、逮捕されることもある。自分のことを理解して、衝動性をどうコントロールするかを身につけて下さい。

- **RS隊長**

「障害があるから仕方ない」と言うことがあるけど、その言い方はよくないと思う。まわりの人に、それなら、勝手にしたらと思われる危険がある。言い方の問題。障害があり上手くできないところがありますが支援して下さい、などの言い方をすれば、応援してくれる味方がずっと増えると思う。

ベンチャーフォーラム から学んだこと



・ 実践できそうなアドバイス

- ① 言い方を考えて話す。
- ② 衝動性をコントロールする。
- ③ 確認する時間を決める。
1 日のうちの何時から何時の間は、
忘れていることはないか思い出す

・ 努力すれば克服できること

どうすればできるかを考えて、分からない場合は、リーダーにどうすればいいか聞いて、いいと思った方法で克服すればいいと思います。

・ 克服できないことにはどうするか？

克服できるまでやるか、それが克服しなくてもいいものなら無理にしなくてもいい。

・ 高校を卒業後

社会人として働くが、何か嫌なことがあっても障害のせいにしないでどこが悪かったかを考えていきたいです。社会では、コミュニケーションをとって丁度の距離を保ちつつ関わりたい。自分自身の将来について、仕事を頑張り、家族を持ち、社会のために頑張りたいです。衝動性をコントロールして忘れ物を減らす工夫をしていきたいです。

・ これからの自分自身に向けて

私は、これから障害とどう付き会っていくかという、何か嫌なことがあっても障害のせいにしないで、特性を生かして頑張っていきたいです。障害を理解してもらうために、どうすれば私が頑張れるかを伝えていきたいです。

障害のある私は、社会に出て、こつこつと仕事をして障害に悩んでなく幸せに暮らしていると思います。私と同じような人を勇気づけて助けていきたいです。

スカウティングを続けて成長

スカウティングを続けて、自信がついたこと、成長したことがあります。火おこし、火をつける薪の組み方、ハイク、ローピングなどのスカウト技能が身につきました。スカウティングを続けて、あきらめないという気持ち、協力すること、力づくではどうにもならないことを学びました。



- **障害を持つ子どもたちへ**

自分は障害があるからダメとは思わないで、障害があっても大丈夫と強い意志を持っていれば、未来は切り開けると思います。ボーイスカウト日本連盟は、障害のあるスカウトも支援しています。「日本アグーナリー」という野営大会も開催しています。

- **スカウトの仲間へ**

障害を持つスカウトを嫌うのではなく分かってあげてください。仲良くなった方が気持ちも暗くならず元気になり、相手の知らなかった事を知れていい気持ちになれると思います。

- **スカウトの指導者へ**

障害を持つスカウトを優遇するのではなく、他のスカウトと同じではないが、その子に応じた指導でいいと思います。発達障害のスカウトを指導するガイドブックが、ボーイスカウト日本連盟HPにありますので読んで下さい。

障害を持つスカウトからの提案

**障害を持つ人や
困っている人を
理解してください。**

名古屋第67団ベンチャー隊は、障害について理解を深め、バリアフリーをめざすため、積極的に支援活動を行っています。

障害を持つ人には、頑張れば乗り越えられる壁もありますが、克服できない壁もあります。

障害を持つ人や困っている人がいたら、できる範囲でサポートをお願いします。

**日本ボーイスカウト
愛知連盟名古屋西部地区
名古屋第67団ベンチャー隊**

[67VS Facebook](#)

スカウティングにおけるサポート事例

困った！ キャンプ道具を片付けられない！！

スカウト：何をすればよいのかわからない。片付ける方法がわからない。

リーダー：「それを片付けて」という曖昧な言い方ではなく、「ペグの泥を拭いて、5本ずつ揃える。数を確認して、緑色の箱に入れる。」一度手順を覚えたら、次からは大丈夫！

*何を、どこに、いくつ、どのようにするのか、具体的に伝える。

困った！ キャンプの食材を忘れてしまった！！

スカウト：得意料理の準備で精一杯で、ほかの食糧を考える余裕がなかった。

リーダー：やりたい事に気持ちが向いてしまうことが多いので、その都度対応する。

*気になることがあると、そちらへ気持ちが向き、他のことを後回しにしてしまう特性を理解。

困った！ 火おこしが、うまくできない！！

スカウト：一度に多くのことを言われると頭が真っ白になる。失敗すると悔しい。

リーダー：困難なことへの挑戦は、酷なことかと躊躇したが、自信になると信じて、1年かけて頑張ってもらった。火のしぐみに興味を持てたら、もっと上手に火を扱えるようになる。

*手順を簡潔に説明し、パターン化する。体験する回数を増やすと記憶に残りやすい。

困った！ パニックを起こしてしまった！！

スカウト：馬鹿にされたと感じる時、どうしていいのかわからない時は、苛々しやすい。

リーダー：パニックが落ち着くまで待ってから話を聞く。疲れていることもある。やってはいけないこと（モノを壊すや自傷など）には、毅然とした姿勢で対応する。

*本人が何故パニックになったのか、本人と周りの状況を把握することが大切。

困った！ 報告書を手書きで書く作業に、とても時間がかかる！！

スカウト：書き方自体がわからない。伝えたいことを文章でまとめるのが難しい。

リーダー：ポイントを箇条書き、見本をみせる。短文で書く。作業の見通しをつけると安心する。書きやすい文房具やパソコンは良いツールである。

保護者：気持ちや意見を口頭で伝えてもらい、文章化し、本人に確認してもらう。

*苦手なレポートは、粘り強く作成したことにより、難しい漢字も書けるようになった。

困った！ 連絡やレポートの提出を忘れてしまう！！

スカウト：他のことが気になると、後回しにしてしまう。アラームを利用しても忘れる。

リーダー：締め切りが近くなったら声をかける。今は無理でもいつかできると気長に見守る。

*時間を決めて確認するなど、習慣になる方法が見つかるの良い。

社会のしくみが作るバリア



私は、障害を分かってもらえず辛い経験をしましたが、あきらめずに挑戦し、ADHDと診断されても富士スカウト章に挑戦するところまでくることができました。それでも、スカウト活動や日常生活には、今もまだバリアがあります。障害を持つ人は、日常生活に困難なことが多くあります。

•バリアとは？

障壁・妨げのこと

•昔と今では、障害に対する考え方が変化

昔：その人の機能に障害があるという考え方（医学モデル）

今：社会の仕組みがつくる障壁がある。その障壁のために困っている人がある。それが障害であるという考え方（社会モデル）

•社会的障壁

障害がある人の暮らしや仕事で妨げになっている物、ルール、考え方などの一切のものを、社会の仕組みがつくるバリアと考えます。

- ①物理的バリア ……交通機関、建築物等
- ②制度バリア ……資格制限等
- ③文化・情報面バリア ……点字や手話サービスがない
- ④心・意識バリア ……無知、無関心による偏見・差別

バリアフリーをめざす



私は、自分自身、障害や障壁の理解を深めて、また、みんなに理解をしてもらい、障害にどう対応していけば良いか考えたい。

•バリアフリー

社会生活をしていく上で、乗り越えられない妨げとなるものを取り除くこと。もともとは、施設の段差解消などハード面の意味合いが強いが、今では広く「障害者」の社会参加を困難にするさまざまな障壁の除去（制度や意識などのソフト面）をも含むようになりました。

•サポート（合理的配慮）

歩くことができない人には、車椅子が必要です。視力の弱い人には、眼鏡が必要です。耳が聞こえない人には、手話が必要です。

頑張れば乗り越えられる壁もありますが、克服できない壁もあります。その時は、サポート（合理的配慮）が必要だということも理解して下さい。

•軽度知的障害の私

私は文字を書くことや文章にまとめることが困難です。いろいろなサポートのおかげで、時間がかかるけれど、漢字も書けるようになりました。スマホやパソコンを使えば、もっと早くできます。

•発達障害ADHDの私

障害の特徴により、やるべき事が何だったか忘れる不注意性や、興奮すると人の話を聞けなくて、混乱してしまう衝動性については、まだまだ時間がかかりそうです。

障害者を守る法律



障害者差別解消法 2016（平成28年）施行

- ・ 差別をしない
- ・ 社会的障壁と合理的配慮

内閣府HP [障害者差別解消法リーフレット](#)

国連の障害者権利条約の締結に向けた法整備の一環として作られた法律です。

障害があってもなくても、だれもが分けへだてられず、お互いを尊重して暮らし、勉強、働くことができるように、誰もが安心して暮らせる豊かな共生社会の実現をめざします。障害を持つ人も、障害者手帳を持っていない人も、障害のある全ての人が対象です。

指導者や仲間へ

スカウトの個性を 受け止め、理解しよう！

—すべての子どもたちのための—
発達障がいのある青少年を支援する
指導者のガイドブック



「発達障がいのある青少年を 支援する指導者のガイドブック」

このガイドブックは、預かっている子どもの中に、発達障害児がいたらどう対応するのがよいのか、という目的で書かれています。

障害を持つスカウトの気持ちが少しわかるとと思います。舎営や野営では、どのような気持ちになりやすいのか？活動ではこうしたら良いのでは？もしかして、名案がひらめくかもしれません。

日本連盟HP [ガイドブック・ダウンロード](#)

平成21年発行のため、一部情報が改正された箇所もありますが、障害のある児童がいない団でも参考になるとと思います。

障害を持つ子どもたちへ

ボーイスカウトを やってみよう！

・ボーイスカウト日本連盟

「地域社会が強く優しい子どもを育てる」という目的に向かって、障がい、経済的な面や家庭環境の特殊性があっても、全ての境遇の子どもたちを受入れ、共に体験活動を通じての成長を継続的に支援していきます。

・日本アグーナリー

4年を周期に、障がいのあるスカウト（特別な配慮を必要とするスカウト）が相集い、海外を含めた多くのスカウトたちとのキャンプ生活を通じて、スカウト仲間としての心の触れ合いと共通体験の中から、明るい希望を持って積極的に社会生活に参加することを目的に開催されてきました。

・障害を持つ子どもたちへ

生きづらさがあっても、本人と保護者が、指導者とコミュニケーションをとり、指導者からの配慮や支援をいただき、仲間を信頼し、仲間からの理解を得ることができるようがんばることで、スカウト活動を続けることができた。だから、みんなできるよ！

「みんなできるよ！」

日本ボーイスカウト
愛知連盟名古屋西部地区
名古屋第67団

www.nagoya67.com



そ な え よ つ ね に
ボーイスカウト